

2026年度 地理歴史科シラバス

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	3	学年	3
学科・コース	普通科 総合キャリアコース、英語コース、幼児教育コース、スポーツコース、音楽コース						
教科書	『詳説日本史』山川出版社		副教材	『新詳日本史』浜島書店			
科目の概要	日本史探究では、私たちの住む日本列島における人びとの歩みを学ぶ。具体的には、日本における政治・社会・経済・文化などである。その際、列島内部にとどまらず、日本と密接な関係を有した多くの地域との関係性に留意していくことが必要である。 上記の観点に留意しつつ学習を進めることで、日本社会がどのように形成されてきたのかを理解し、日本の現在と未来を見定めることができるようになることが目標である。 3年生においては、幕藩体制の成立から現代までの日本の歴史を学ぶ。			評価の観点	○知識・技能…近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
授業内容	教科書、副教材の内容に沿ったプリントを使用し、授業を展開する。適宜、授業内容を踏まえた小テストを実施し、知識の定着を図る。また地図・パネル・映像といった視覚的な教材を用いて、歴史を多角的に捉える視点を養うことをめざす。 課題や問題の特性に応じて、iPad を使用し、調べ学習を行ったり、調べた内容をグループで共有したりするなどの取り組みを通し、理解を深める。 歴史は暗記のイメージが強い傾向にあるが、現代の日本で起きている多様な問題の歴史的背景を考察し、未来について考える力を養うことをめざす。			評価方法	定期考査と平常点で評価する。平常点は授業への積極的な姿勢・授業中の小テスト・レポート・課題プリントなどで総合的に評価する。調べ学習やグループ発表に取り組む姿勢など、学び合う意欲を評価する。		
学習方法				学習方法	日本史学習の基本は、復習である。授業を受けた後、授業で学習した事柄を確認、整理し、理解することが必要である。 また、適宜実施する小テストに備え、反復学習で実力を身につける。		
備考				備考	歴史能力検定を、11月頃に本校で受験できる。		

2026年度 地理歴史科シラバス

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	3	学年	3
学科 ・ コース	普通科 特進コース（文系）総合キャリアコース（文系特進）						
教科書	『詳説日本史』山川出版社		副 教 材	『新詳日本史』浜島書店			
科目 の 概 要	日本史探究では、私たちの住む日本列島における人びとの歩みを学ぶ。具体的には、日本における政治・社会・経済・文化などである。その際、列島内部にとどまらず、日本と密接な関係を有した多くの地域との関係性に留意していくことが必要である。 上記の観点に留意しつつ学習を進めることで、日本社会がどのように形成されてきたのかを理解し、日本の現在と未来を見定めることができるようになることが目標である。 3年生においては、幕藩体制の成立から太平洋戦争終結までの日本の歴史を学ぶ。			評価 の 観 点	○知識・技能…近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。		
				評価 方 法	○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。		
	授 業 内 容	2年生で学習した内容を基盤とし、3年生では江戸時代から明治維新・大正デモクラシー、2度の世界大戦を経て、現代の情勢までを学ぶ。進度授業に加え、入試に向けて演習問題等をできる限り実施する。 授業では、小テストを適宜実施し、知識の定着を図る。問題によっては、ペアワークを行い、協力して解くことで理解を深めます。映像や史料、レプリカを見たり、触れたりして想像力を働かせる。 授業内で取り組むことのできない文化史や経済史に関してはICTや講習を活用して学習する。			学 習 方 法	○主体的に学習に取り組む態度…近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	
備 考					定期考査と平常点で評価する。平常点は授業への積極的な姿勢・授業中の小テスト・レポート・課題プリントなどで総合的に評価する。調べ学習やグループ発表に取り組む姿勢など、学び合う意欲を評価する。		
				学 習 方 法	日本史学習の基本は、復習である。授業を受けた後、授業で学習した事柄を確認、整理し、理解することが必要である。		
				備 考	また、小テスト・中テストを適宜実施するので、反復学習で実力を身につける。また、3学期はテーマ史を中心に演習をして確かな実力を身につける。		
				備 考	歴史能力検定を、11月頃に本校で受験できる。		

2026年度 地理歴史科シラバス

教科	地理歴史科	科目	(学) 地理特講	単位数	2	学年	3
学科 ・ コース	普通科 特進コース (理系)						
教科書	『新詳高等地図』(帝国書院)		副教材	問題集『チェック&演習 地理』(数研出版)			
科目の概要	特進コース3年生のうち、理系選択者のみが履修する。地理探究を履修していないが、地理探究の大学入学共通テストレベルの問題に対応できる学力を身につけることを目標とする。そのため、日頃から社会全体や世界情勢に対して興味・関心を持って接し、課題解決に向けた思考トレーニングをする習慣をつけておくよう、心掛ける。			評価の観点	○知識・技能…社会全体に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題に関わる地理的な素養を身につけている。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…社会的事象の地理的な見方・考え方について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価方法	○知識・技能…定期考査等で評価する。 ○思考・判断・表現…定期考査の思考問題やレポート、課題等で評価する。 ○主体的に学習に取り組む態度…授業態度や提出物、グループ活動等で評価する。		
	問題演習を通して既習事項の振り返りと実践力の養成を行う。近年の出題トレンドを踏まえて単なる暗記とせず、どういった理由でそのような事象が発生するのかを理論的に考え、規則性や法則性を押さえ、特殊な事例に対応する力を養い、大学受験で通用する学力を身につける。			学習方法	地理の学習では、ひとつの事象を多面的に捉えることが重要である。授業内で扱った語句の意味を理解することはもちろん、その語句がどの国や地域に関わるものなのか、グラフや表に表すとどのようなまとめられるのかなど、その都度しっかりと確認し、活用できるように学びを深める。		
授業内容				備考			

2026年度 地理歴史科シラバス

教科	地理歴史科	科目	(学) 日本史特講	単位数	3	学年	3
学科 ・ コース	普通科 特進コース（文系）、総合キャリアコース（文系特進）、英語コース						
教科書		副教材	問題集『チェック&演習 日本史』（数研出版） 『日本史重要語句 Check List』（啓隆社） 『新詳日本史』（浜島書店）				
科目の概要	大学受験において日本史を選択する可能性のある生徒の多いクラスが履修する。日本史探究の大学入学共通テストレベルの問題に対応できる学力を身につけることを目標とする。また、私立大学入試や二次入試に向けた思考力を問う問題にも対応する。2年次から開講されている日本史探究の授業内容をしっかりと把握し、課題解決に向けた思考トレーニングをする習慣をつけておくよう、心掛ける。			評価の観点	○知識・技能…日本史全体に関わる諸事象について、広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題に関わる歴史的な知識を身につけている。 ○思考・判断・表現…考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ○主体的に学習に取り組む態度…日本史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。		
				評価方法	○知識・技能…定期考査等で評価する。 ○思考・判断・表現…定期考査の思考問題やレポート、課題等で評価する。 ○主体的に学習に取り組む態度…授業態度や提出物、グループ活動等で評価する。		
	問題演習を通して既習事項の振り返りと実践力の養成を行う。そのため、1学期は2年次の日本史探究で学んだ範囲から始め、復習を兼ねて進めていき、徐々に追いついていく形をとる。 近年の出題トレンドを踏まえて単なる暗記とせず、理論的に考え、規則性や法則性を押さえ、特殊な事例に対応する力を養い、大学受験で通用する学力を身につける。			学習方法	日本史の受験準備において既習事項の知識は必須である。授業内での確認は最小限にとどめるので、基礎基本の復習をしっかりと行っておく。解答は選択式でも、その根拠となる部分を説明できるように、知識を蓄えておくようにする。		
授業内容				備考			